

9. 参考資料

(1) 活動報告パワーポイント資料 《神戸大学と篠山市との連携》



顔のみえる地域の知の拠点

篠山フィールドステーションは、地域の知の拠点として2006年11月開設に開設されました。

篠山市の、日本の、そして世界の農業、農村の持続的な発展に寄与する研究教育の拠点となることを目指しております。

実践知の伝統の継承

神戸大学農学部の前身である兵庫農科大学は、篠山市にあった。

失われつつあった歴史的な関係、人のネットワークという大切な資源を改めて紡ぎ、相互の発展につながる新たな関係を築くことも目的としています。

これまでの経緯

2006年4月
神戸大学農学部と篠山市の間で地域連携推進会議を立ち上げ、包括的協議を行う

2006年11月
上記成果としてF Sを開設

2007年4月
地域連携協力に関する協定書を調印

2010年7月
連携協定を発展させ、全学を対象とした大学協定を調印。神戸大学篠山フィールドステーションになる。

3つの連携事業

地域課題解決と相互の人材育成の充実はかる。

- 1) 地域共同研究
- 2) 地域交流
臨地教育支援、農村地域の学習ネットワーク形成
- 3) 相談情報発信
フォーラムやセミナーの開催、オフィスアワー

研究活動支援（地域づくり）

臨地教育支援（食農こぼ教育等）



5) 食農コープ教育の推進

教室での学習と関連した職業体験や生活体験を学生に提供し、より現場や社会に貢献できる人材を育成するプログラム。1年から4年まで、ステップアップ式の質の高い授業を提供します。



授業後も学生活動団体が活動

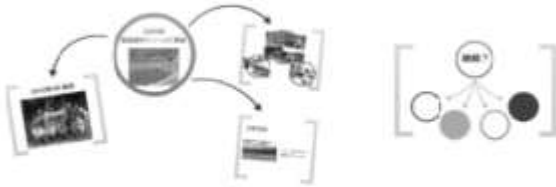
藤山市内で活動した学生の数… のべ291人(H23年)



《ささやまファン倶楽部》

2013/12/16月曜地産地消大学連携フォーラム

神戸大学 ささやまファン倶楽部 活動報告



目次

- ・ささやまファン倶楽部について
 - 設立までの経緯
 - 活動報告
- ・フォーラムについて
 - 「継続」って？



2010年9月 結成



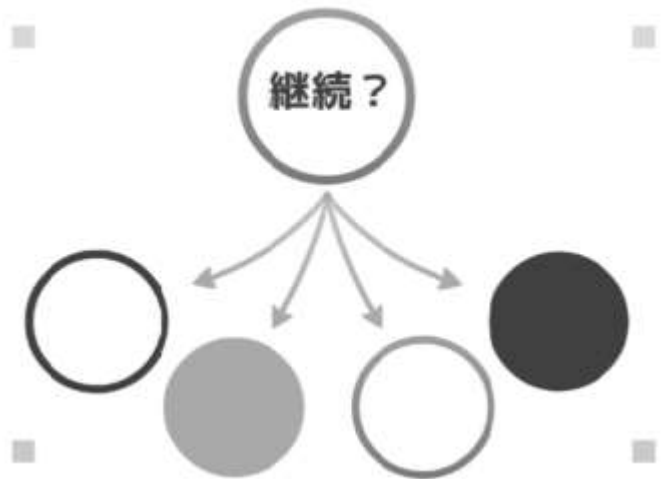
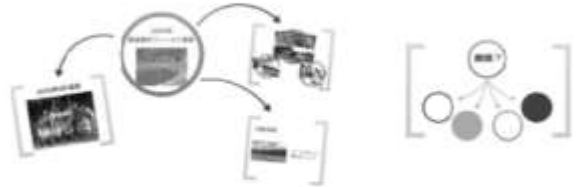
活動地域



人口：56世帯152人
高齢化率：36.3%

2013/12/9 門田地域大学連携フォーラム

神戸大学 ささやまファン倶楽部 活動報告



《にしき恋》



概要

- ・メンバー：48人
内訳 神戸大45人 兵庫県立大1人
(農、海事、理、経済、文、発達など)
1回生10人、2回生37人、3回生1人
- ・活動日：毎週末、祝日
- ・活動場所：篠山市西紀南地区

主な活動

- ・農業ボランティア
- ・にしき恋farmにおける生産一販売の実践
- ・地域活動
- ・里山整備計画作成
- ・他団体との交流

農業ボランティア

学生 → 若い労働力・活力 → 農家

農家 → 知識・温もり → 学生

互いが利益を得れる関係性を維持していくことが課題



にし恋farm

☆生産
 コシヒカリ
 夏野菜(トマトなど計12品目)
 丹波黒大豆
 冬野菜(白菜など7計品目)

生産から販売の学びの場であり、
 地元の人との交流の場

黒枝豆・コシヒカリの販売

大学	兵庫県庁	徳島
		
東京・丸の内	黒枝豆 枝付き 352kg 鞘のみ 65kg	
	コシヒカリ 210kg	

黒枝豆・コシヒカリの販売



林 芳正 農林水産大臣

六甲祭・厳夜祭



にし恋farmのお米を使った雑穀炊
 まち協から大鍋をお借りして大好評
 でした

篠山で活動する他団体と共同出店

他団体との交流

- 全国の食と農林漁業に関わる学生団体のリーダー合宿
- 鳥取で行われた合同合宿への参加
- にし恋の活動への参加
 (九州大、鳥取大、慶応大、京都大)
- 食と農林漁業大学生アワード応募



地域活性化

自主イベントの開催



タケノコ掘り
ホテル鑑賞会・そうめん流し

地域行事への参加



お祭りの補助
神輿の担ぎ手
清掃活動への参加
スポーツ大会への参加

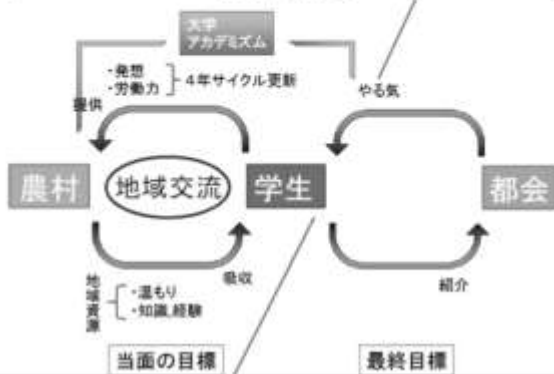
報告会の開催



地元の方々に向けて日々の
思いをプレゼン

懇親会で新たな交流の場
が生まれた

目指す姿



《関西学院大学法学部 4回》

関西学院大学 法学部

発表者 青木耕平

- ①キャンプ企画
- ②織田祭り
- ③わかもの意見交換会

他、柏原エリア外のFW

柏原に一度訪れた後、「大学生として何をすることが地域の活性化につながるのだろう…」と話し合い

「柏原に住む子供たちに対して、私たちが働きかけ柏原を好きになってもらい、私たちがいなくなった後も彼ら自身で柏原のために動いてくれるようにする」

つまり

「柏原に対して子どもたちが立ちあがる」

ことを目標に掲げました。

まずは、知り合ってもいないので知り合うところから始めました。

①夏休みキャンプ企画

■ 活動目的 ■

まずは地元の方との交流が重要だと考え、柏原に住む子ども達とキャンプを通じて交流することにより、子どもたちとのパイプ（つながり）をつくること。

■ 活動内容 ■

柏原町内の小学校（崇広小学校・新井小学校）男子9名女子7名の計16名の小学生と「丹波悠遊の森」で1泊2日のキャンプを行う。



②スタジオカフェ

in 織田祭り

開催日 10月14日
10時～15時ごろまで

■ 活動内容 ■

《開学スタジオでのカフェ運営》

無料の飲み物をスタジオ内で提供しながら、展示した活動内容（キャンプと前年度の活動）を見てもらう

《武者行列に参加》

ゼミ生2名が織田祭り特有の、大名行列に甲冑を着させていただきながら参加

■ 目的 ■

- ①関学生の活動を知ってもらう
- ②地元住民との交流

来客者がどこから来たのか ※前日13日も含む

■ 柏原町 ■ 水上市 ■ その他



- ・アンケート回答者数 95名
- ・その他、大阪市、尼崎市、姫路市、西脇市、明石市、京都府などからも祭りのついでに立ち寄られていた。
- ・丹波市内よりも市外からのお客様が多い

年代別比較



- ・最も多かったのが60代で33名
- ・来場者の半分以上が50代~70代のお客様でした。
- ・赤の部分である10代以下の子どもたち合わせて10名。
- アンケート未回答も含めてキャンプ参加者は5名来てくれました。



来場者の方からの意見

- ㍿ 若い人に頑張って欲しい 7名
- ㍿ ごみばこ、トイレを多くしてほしい 3名
- ㍿ 大人どうし、子供どうしで自立して活動できるよう、地元の方が部外者にならないよう、まずは参加してもらうことを第一に考えてみてください。
- ㍿ 遠方から来たものに、地域の見どころを案内する企画（短時間に柏原の良さをみつけるため）
- ㍿ お惣菜屋があったらいいと思う
- ㍿ 地域の子どもたちと一緒にイベントをしてほしい（遊び・交流）

※「楽しくしてほしいこと、改善してほしい点を教えてください。」という質問に対する答えを一部抜粋

③丹波地域大学連携フォーラムin篠山

■ イベント内容 ■

- ・丹波で地域貢献活動を行っている4大学の学生団体の活動報告。
- ・その後に1時間ほどグループ毎にフリーディスカッションを行って、活動に対する疑問点や課題点などを話し合う。

④ 柏原外エリアでのフィールドワーク

■ 活動目的 ■

・ 柏原内だけでなく、柏原の外に目を向け新たな地域資源の発見と活用方法を考える

■ 活動内容 ■

・ 「春日町黒井駅周辺」「水別れ公園、兵庫県立年輪の里」「篠山市（篠山城周辺・河原町妻入商家群）」の地域に赴き、写真や文書などを採り情報収集。

⑤ 第三回わかもの意見交換会

主催団体はグライネさん（柏原を良くしようと活動なさる青年団）で、山下ゼミは第三回のゲストとして招かれました。

《内容》

丹波市について10代～30代の若者がテーマに沿った意見を出し合う。

《目的》

各回で出た意見をまとめ、それら意見を踏まえた提案書を丹波市長に提出することで丹波市全体を良くすること。

■ ゼミ側の思い ■

・ 「内側から見たリアルな意見」に触れること。

・ 活性化対象が「丹波市」か「柏原」か、という規模の違いはあるものの、団体同士のつながりを築きたい



各活動の結果

■ スタジオカフェ ■

・ 柏原内外の人（特に外）の意見をアンケートとして90枚以上も頂いたのは貴重な財産
・ 少数ながらもキャンプ参加者が来てくれたのでつながりの強化
・ 大名行列に参加したことにより、柏原民の雰囲気味わえた

■ 丹波地域大学連携フォーラムin篠山 ■

・ 多少ですが、私たちの活動を知ってもらえた。
・ 他大学の活動を知ることによってゼミとの比較を行い「山下ゼミならではの」について考えるきっかけになった。

■ 柏原外エリアでのフィールドワーク ■

・ 目的通り、柏原内だけでなく、柏原の外に目を向け新たな地域資源の発見ができた。しかし活用までにはいたっていない。

■ 第三回わかもの意見交換会 ■

・ 思っていた以上に柏原が抱える見えない問題や、外から見れば不便と感じる部分が町民にとってはプラスであるなどの発見が多々あった。

関西学院大学 法学部


山下ゼミ



今年度ゼミ活動の目的

- ・ 柏原という町を知る
- ・ 柏原に住む町の人々を知る

・ 中心市街地活性化について、柏原の方々にとってどのように発展するのが一番良いかを考えるため、町になじみ、とけこもうという想いの元、町の方とお話し、様々な「声」を聞く。



活動①

- ・ 兵庫県丹波市柏原町にて
- ・ フィールドワーク
今年度春より、柏原の街中、名所・名跡、商店街、駅周辺などを歩き、調査。
- ・ 勉強会
法学スタジオにて、様々な方に来ていただきお話を伺う。質疑応答。




★スタジオにて
★フィールドワークの様子



活動②

仮想会議り大会にて！
優秀賞受賞！

- ・ 柏原夏祭り～8月13日～
夏休みに行われた夏祭りに参加。
- ・ 吉市場公民館にて活動の表示・休憩所の開設
- ・ ビンゴ大会の司会
- ・ 仮想会議り大会に参加
公民館では飲み物とクッキーの提供、バルーンアートの実施。同時にヒアリング、来られた方々にポストイットを使って「柏原のすきなところ」の調査、アンケートの実施。

<結果>

ポストイット参加者数：44名
アンケート回答者数：49名
(10～20代：20名 30～40代：11名 50代～：10名)






活動③

- ・ 織田祭り・うまいもんフェスタ～10月13日・14日～
柏原での秋のお祭り、織田祭りに参加。
- ・ 法学スタジオの開放。
- ・ 織田祭りで行われた大名行列へのゼミ生の参加。
スタジオでは夏祭りと同様、休憩所として解説し同時に展示物の設置、ヒアリングの実施、アンケートの実施、無料での飲み物・お菓子の提供。

<結果>

アンケート回答者数：62名
(10～20代：2名 30～40代：21名 50～：34名)

★大名行列の様子
★ヒアリングの様子

活動④

- ・ 広報～チラシの作成・Facebookの活用
- ・ 関西学院大学法学部の活動をより多くの人に知ってもらうために、2013年度ゼミ紹介のチラシを作成、イベント毎に配布・展示。
- ・ Facebookで山下ゼミのページを作成、ゼミ生が順番にフィールドワークやその他ゼミ活動、イベント毎に更新。

Facebookのページ→



活動⑤

・ 懇談会

- ・「TAMBA HAPPINESS MARKET」の方々と
開学スタジオにてゼミ生とハピネスマーケットの方々と懇談会。
- ・丹波市柏原支部商工会青年部の方々とOBの方々と
開学スタジオにてゼミ生と商工会青年部の方々とOBの方々と懇談会。



活動⑥

・ その他柏原以外での学外活動・勉強会

- ・尼崎商工会議所訪問・尼崎市の商店街の見学
(空き店舗活用支援事業・駅前開発事業などについて...)
- ・伊丹商工会議所訪問・伊丹市内の見学
(伊丹・バル事業・街中建物の景観事業などについて...)
- ・兵庫県庁訪問
(兵庫県地域再生大作戦・空洞化問題などについて...)

★様々な地域の中心市街地活性化の取り組みを勉強会にて学ぶ。



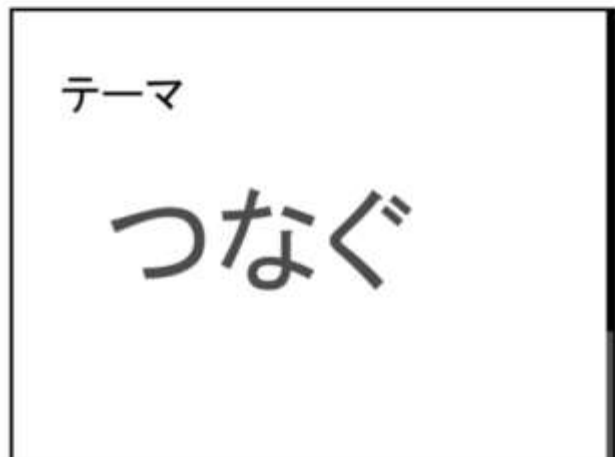
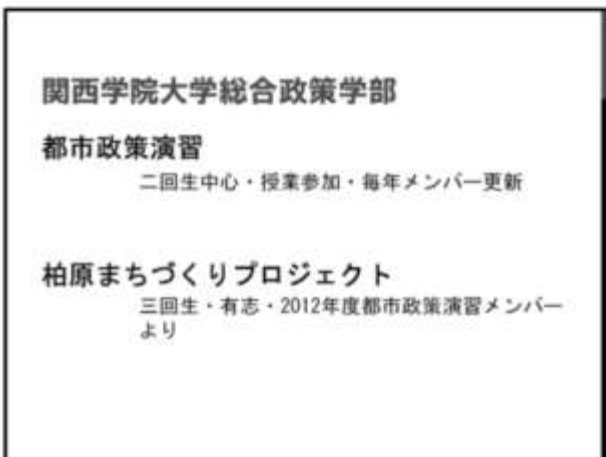
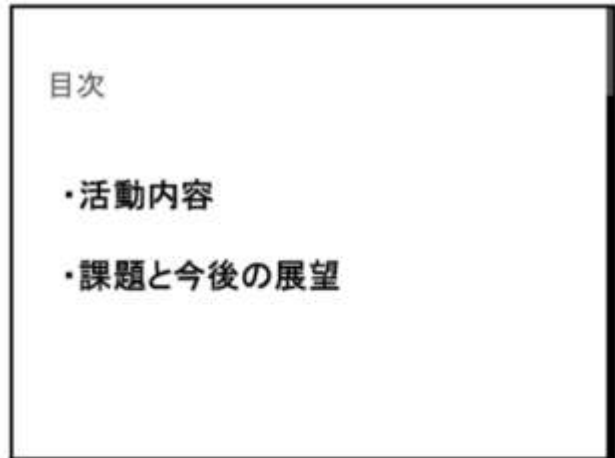
今後の活動

- ・山下ゼミ生による「柏原BOOK」作成
今までのフィールドワークやヒアリング、勉強会、懇談会の話を元に
関学生独自の目線で柏原に関するガイドブックの作成。
「こうだったのか柏原！」というテーマの元、柏原の魅力を再発見できるような
内容を思案中。
期間は残り少ないが、今年度の活動の集大成として作成予定。

御静聴
ありがとうございました



《柏原まちづくりプロジェクト》



中心市街地×中心市街地外 ACFイベント参加

TAMBA HAPPINESS MARKET (TAM)
 2023年2月 第11回開催予定(予定あり)

【開催日時】2023年2月18日(土) 10:00～16:00
 【開催場所】TAMBA 1階(旧TAMBAビル)
 【参加費】無料(寄付あり)

【イベント内容】
 ・お祭り気分満載のイベント
 ・お土産・お菓子・お飲み物など、お土産屋さんが集まる
 ・お祭り気分満載のイベント
 ・お土産・お菓子・お飲み物など、お土産屋さんが集まる

【お楽しみ企画】
 ・お祭り気分満載のイベント
 ・お土産・お菓子・お飲み物など、お土産屋さんが集まる

【お問い合わせ】
 TAMBA事務局 TEL: 090-4333-1111

結田まつり
 2023年9月15日(土) 10:00～16:00
 【開催場所】結田駅前広場

【イベント内容】
 ・お祭り気分満載のイベント
 ・お土産・お菓子・お飲み物など、お土産屋さんが集まる

【お問い合わせ】
 結田まつり実行委員会 TEL: 090-4333-1111

うまいもんフェスタ
 2023年10月14日(土) 10:00～16:00
 【開催場所】TAMBA 1階(旧TAMBAビル)

【イベント内容】
 ・お祭り気分満載のイベント
 ・お土産・お菓子・お飲み物など、お土産屋さんが集まる

【お問い合わせ】
 うまいもんフェスタ実行委員会 TEL: 090-4333-1111

結田まつり
 2023年9月15日(土) 10:00～16:00
 【開催場所】結田駅前広場

【イベント内容】
 ・お祭り気分満載のイベント
 ・お土産・お菓子・お飲み物など、お土産屋さんが集まる

【お問い合わせ】
 結田まつり実行委員会 TEL: 090-4333-1111



コミュニティスペース

人々が一定時間その場所に集まり、
 複数人でコミュニケーションをとる場所

飲食店対象アンケート

飲食店の種類	1階に飲食店が並ぶ	2階に飲食店が並ぶ	3階に飲食店が並ぶ	4階に飲食店が並ぶ	5階に飲食店が並ぶ
1 洋食	洋食、和食、カフェ	洋食	洋食、和食、カフェ	洋食	洋食
2 和食	和食、カフェ	和食	和食、カフェ、洋食	和食、洋食	和食、洋食
3 焼肉	焼肉	焼肉	焼肉	焼肉	焼肉
4 居酒屋	居酒屋、和食、ラーメン、そば、うどん	居酒屋、和食、洋食	居酒屋、和食、洋食	居酒屋、和食	居酒屋、和食
5 喫茶店	喫茶店、和食、洋食、カフェ	喫茶店、和食、洋食	喫茶店、和食、洋食	喫茶店、和食	喫茶店、和食

コミュニティスペースの減少

課題

- 不十分な連携
- 継続年数

不十分な連携

不十分な連携はまちづくり活動に支障をきたす

違うプロジェクトが同じ人に似たような調査をしよう

地域の人から見るとどのプロジェクトも同じ関学生!

関学生です!
まちづくりに関するアンケートをお願いします!

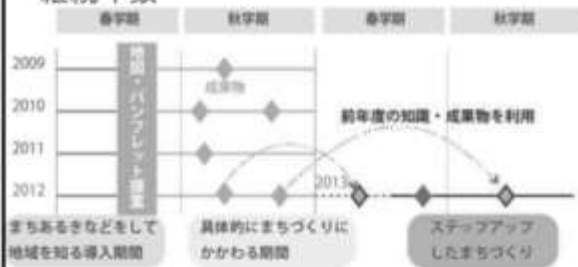
あれ?
先週も似たようなアンケート答えたはずー???

税 法 給まち

不連携・不協音が生まれてしまう

他にも...商品購入意欲似たような政策提案

継続年数



物・情報・アイデアの共有



物・情報・アイデアの共有

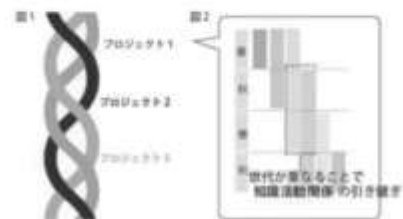
学生にとって

- 物・アイデア・情報の更新とステップアップ
- 支え合い刺激を与えあえる
- 同地域で活動するプロジェクトとしてのまとまり
- 似たような政策提案がなくなる
- 総合的な視野

地域にとって

- 地域との円滑なコミュニケーション
- ステップアップしたまちづくり
- 違うプロジェクトに2度情報を提供する必要がない
- 安心感、信頼感のアップ

連携




1. プロジェクト間での連携を強化
(図1: 変わる機会をたくさん 図2: 世代間での継続年数を増やすことにより、図1: 互いに情報共有)
2. プロジェクト内での世代間連携の強化
(図2: 世代間での継続年数を増やすことにより、図2: 世代間での活動が実現、情報の引き継ぎをすることで一連性のある活動へ)

《神戸親和女子大学》

神戸親和女子大学
Field study支援室 活動報告

2013年12月8日(日)
 神戸親和女子大学 文学部総合文化学科
 3年 岡崎敦子



<フィールドスタディとは>
 1. 取組の背景とスタート
 若い女性の感性で『情動マーケティング』の提案
 2010年度の「マーケティング論」でフィールドワーク
 として、大阪の百貨店の売場改善に取り組む。
 親和 X 電通 X なんば高島屋




TAKASHIMAYA 5gokai-PJ
 学生視点の売場づくりのご提案

5gokai
 2010.12.05
 神戸親和女子大学
 3年-4年3組V (Takashimaya)

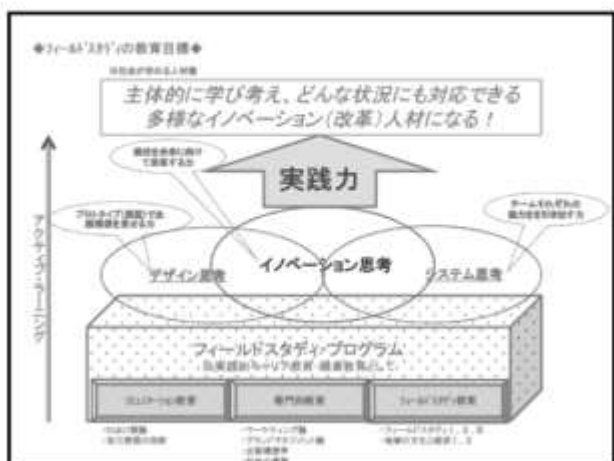
プロア計画

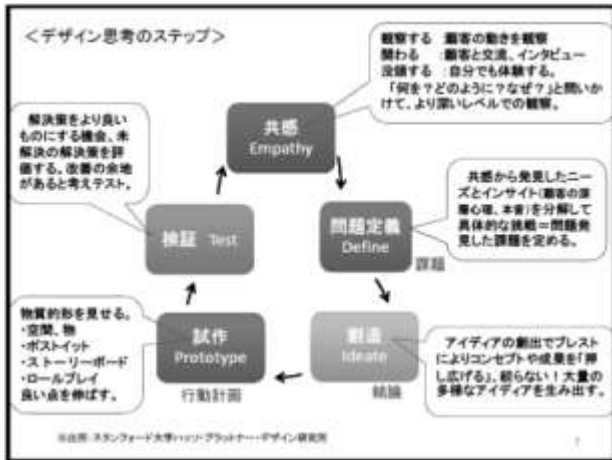


2. 取組事例
 ①淡路生田村



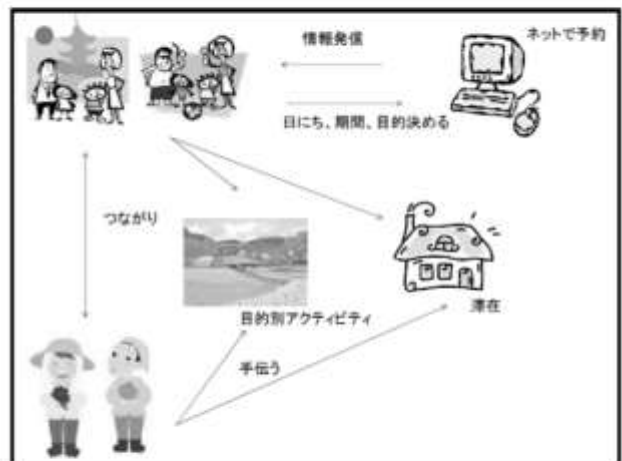

- ②南あわじ市 沼島
- ③豊岡市 但東町
- ④鈴蘭台 駅前
- ⑤オリエンタル製靴 商品開発
- ⑥小西酒造 日本酒カクテル
- ⑦六甲バター チーズフォンデュ
- ⑧伍魚福 「神戸セレクション」
- ⑨東播染工 テキスタイル開発
- ⑩アシックス ランニングコーティネット

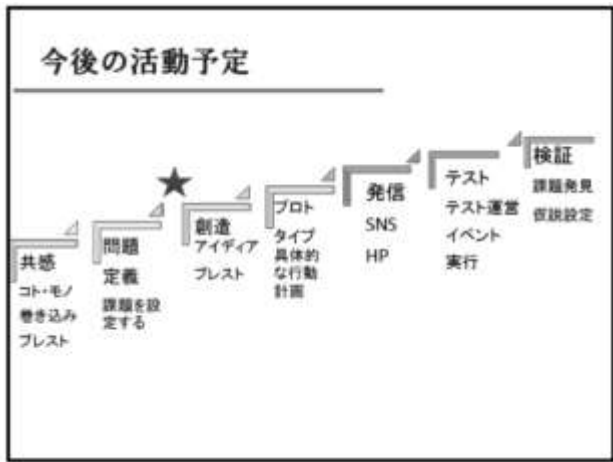
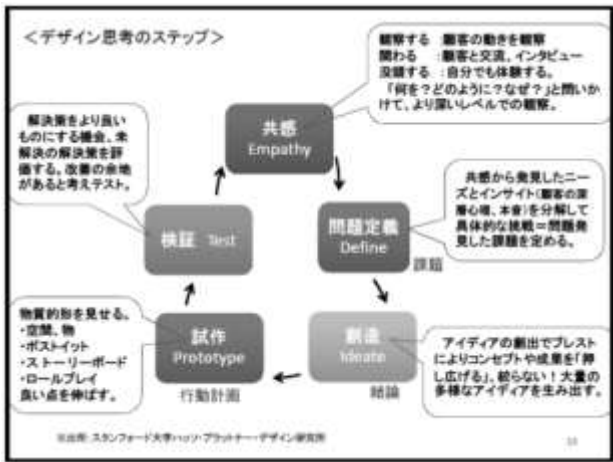




久下地区project

久下地区×神戸親和女子大学





(2) 参加者事前アンケート回答

フォーラム参加学生に対し、地域貢献活動を実施する上で日頃考えていることや感じていることを事前にアンケートした結果を以下に示す（回答数：9団体 約25名）

Q1.学生から見た地域課題とは？

- ・学生の活動内容や取り組む姿勢に問題があることを前提として、なかなか地域の方のまちづくりに対するモチベーションを高めることが出来なかった
- ・既にまちづくり活動を行っている方と共同で活動をするということはあったが、なかなかまちづくりに関心がない方や観光客の方と共同でまちづくりをするという形には持っていけなかった（個人的にはまちに関して全く興味がない人をまちづくりに巻き込むことを目標としているため）
- ・若者が自分の地元や田舎に興味を持っていないこと
- ・若者へその地域の誇り、魅力を伝えていくこと活気があるといい、その地域に暮らす人でも関心が薄く地域以外の人が興味をもたないこと。魅力をいかに発信するか、若者の力をどう活用するか
- ・学生がただその地域に行っただけでなく、相互にアクションがないとだめだと思う
- ・生の声がないとわからないこともある、本当に何が課題なのかを学生に伝えること、それを聞きたい
- ・地域全体として活気がない、若者がいないことも要因だと思うが地域でのつながりが見えない
- ・身近な地域での変化や発見に気付きにくく、人同士の地域全体のネットワークが希薄な気がする
- ・地域住民のモチベーション、外部から再生しに入っても地域住民が積極的に参加しないとうまく機能しない
- ・若者の働く場が少ない、地元の魅力に気付いている人が少ない、高齢化による働き手の減少
- ・高齢化が進み、地域を動かすのが高齢の方が中心になってしまうため、若い人達が動きにくくなる
- ・大学生の世代がない、若者が地域を出ていってしまう、後継ぎがない
- ・集落間のコミュニケーションが少なく、コミュニティが限定されてしまっている
- ・高齢化による人口減少、商店街の衰退、これらが負のスパイラルになっている気がする
- ・知らない土地を故郷のここのように考え、課題解決に向けて親しみを忘れずに取り組む
- ・新しいことに対して前向きに取り組むまでに時間がかかること。意思統一や課題共有など、自治機能は、他の集落と比較して優れていると思う。
- ・耕作放棄地の増加、特に山の端。そこから連続する里山の荒廃
- ・ファン化から消費者までの踏み込みがもう一歩。楽しんでもらえばいいから農産物を買ってもらおうへの意識転換。来た人の住所を聞いてデータ化、新米の時期にダイレクトメールをするなど。
- ・集落の運営を支えている人々が高齢者であり、若者が絡んでいない。そのため、集落の将来に危機感を持っているが、それを打開する何かを考え、さらに実行することが厳しい状態がある
- ・交流事業の運営に地域の若手が参加していないこと
- ・過疎の進む地域で人を呼び込むという意識が低い気がする、当事者たちが人を呼び込む必要性を感じていない
- ・団結力があり行動に移す潜在力も持っているが、提案し引っ張っていくリーダーがいないと感じる
- ・都会の利便性を知ってしまうと、不便なことがどうしても多い。
- ・地域の祭で山車に乗る子どもが少なく、山車の数が減少している。伝統ある日本文化を象徴するともいえる“祭り”を活気づけていくことが地域を守ることもつながると思う。世代間の交流が大切。
- ・課題は作ろうと思えばいくらでも出るが、ないと思えばないと思う
- ・地区の中で、動こうとしている人はいるけれど、無関心な人もいるところ
- ・若い人が働きたくなる仕事がない、もしくは働きやすい構造でない。

Q2.継続的に活動することで起きた地域の変化は？

- ・ゼミやサークルといった形式ではなく授業という形が入るため、継続的に一つの活動を行うことが困難であり、年度ごとにまた初めからスタートという形になってしまい、蓄積された成果をあげる事が出来なかった
- ・自分の名前を覚えてもらえた
- ・その場所において再生すべきもの、課題がより見えてきたこと
- ・活動拠点とその周辺に活気ができ、住民が自発的にコミュニティづくりの運動をしている印象
- ・様々なまちの仕事などを任されるようになった
- ・その地域に暮らす人が地域外の人と関わりを持つことで、改めてその地域の良さが発見でき、その地域を客観的に見ることができていると思う
- ・一つの活動から始まり、それだけで終わらず、様々な活動分野でもお話をいただけるようになった
- ・何かしようとしていた若手の人達が実際に行動に移した
- ・今まで関わりのなかった地元の方々が私たちを通じて知り合った
- ・学生団体が活動しているところを地域の人々が見て、活力、元気を与えられたと思う
- ・活動そのものを少しずつ知ってもらえるようになった
- ・顔見知りが増えたことで地域の方とより話しやすくなった、自分たち自身が活動しやすくなった
- ・地域の方々が自分たちの活動をより理解していただけるようになった
- ・他所の人が地域に来ることに耐性ができた
- ・山に手を加え続けられるので、ある程度明るくなったなど変化が実感出来るようになった。その成果が目に見えることで信頼がもらえ、なにもしないときより地域に対して発言しやすくなった
- ・学生活動の認知度、また期待度は、多少なりとも増えたかもしれない
- ・学生である我々が集落を訪れるだけで、歓迎されるようになった。特に画期的な変革ができたわけでもなく、むしろ邪魔になっていたと思うので、とても嬉しいことだった
- ・ポジティブな変化もあると思うが、“大学生頼み”のようなネガティブな変化も生じたと思う
- ・学生団体や授業として、これからも篠山に関わっていく機会はなくなるだろうし、もっと関わる機会が多くなっていてもいいと思う。ぜひ大学生や高校生が篠山に行って活動する機会が増えて欲しい
- ・学生活動への認知度、期待度が上がった。学生の受け入れへの抵抗感が徐々に消えてきていると感じる
- ・一回だけでは形作れない地域との連携、関係性が築けた
- ・地元の方から様々な声を掛けてもらえることが多くなった
- ・私たちが地域にすることで、気持ちが若くなる、元気になる、ほっとする、また、地域に新しい風をもたらしてくれたと言って下さった
- ・“学生とやりたい”“学生にやってほしい”という声がかかるようになった
- ・地域というより自分自身に、知り合いのおっちゃんやおばちゃんが増えた

Q3.活動する上でのモチベーションの保ち方

- ・新しく入ったメンバーに対して自分たちが行ってきた活動を目に見える形で還元すること。まちづくりの活動の成果は形になって現れないので、活動を行う学生と活動の記録を行う学生に分かれて、活動をしっかりアーカイブすることが重要であると感じた
- ・地域の人から頂く温かい言葉
- ・人との関わり、次へとつながる活動をする
- ・多くの人達と対話しながら進めること
- ・私たちが関わりを持つようにすることに対して、地域の方が受け入れてくれ、その地域に入り込むことができる
- ・コミュニティづくり、地域再生の活動は仕掛ける側も住民側もやりがいや楽しさがあれば、モチベーションは保てる
- ・徐々に地域の人を巻き込んでいけているという実感
- ・喜んでくれる人がいること
- ・地域に馴染んでいるなど感じる時
- ・変化を求めたり、何気ないことにも面白みを見出す
- ・地元で仲良しの人をつくる
- ・活動を楽しむこと、義務ではないと思うこと
- ・実際活動を行っていく中で自分たちの活動がどれくらい街の方に影響を及ぼせているのか実感がなく、モチベーションが下がりかけることはあるが、実際に地域の方と触れ合うことでまちの良さを再発見でき、モチベーション向上につながっている
- ・今までの活動から見えてくる地域の特徴を常に頭の片隅に置いておく
- ・短期の目標を明確にする
- ・信頼されたい、地域をよくしたいという気持ち
- ・山が手をかけると変化していくのも嬉しいし、連れていった人に農村の楽しさを伝えられるとなお嬉しい
- ・里山整備そのものの楽しさ、町ではできない経験(たき火、木を切る、なたを使う等)
- ・自然の中で楽しく活動できることと、“自分やってるぞ”という達成感
- ・一緒に活動する仲間がいること、活動中のご褒美(美味しい食べ物など)があること
- ・田舎で体を動かして精神を解放する楽しさ、地域の方々と交流する楽しさ
- ・里山整備など活動そのものの楽しさ、仲間と目標に向かって取り組むことの楽しさ
- ・無理しない、行きたくない時は行かない
- ・少しでも力になれたらな、積極的に活動している人の手助けができればな、という気持ち
- ・見知った地域の方々とおしゃべり、メンバーの“楽しかった”という反応
- ・地域の温かさ、都会では味わえないイベントや作業の楽しさ
- ・地域の方々やメンバーとおしゃべり。大変な畑作業も、休憩の時のおしゃべりのために頑張れる
- ・強いていうなら人間関係、自分にとって大切な関係が団体を通してできている
- ・自然が好きなので、自然に囲まれている地域に行くのをいつも楽しみにしている
- ・地域の方が喜んでくれることと自分も楽しめることの両方を意識している

Q4.活動経験の将来のライフスタイルへの活かし方とは？

- ・まちづくりを行ってきた学生がその経験をダイレクトに活かせる職場が少ないと感じる
- ・住む
- ・生活を豊かにするために、どう人と関わり、地域と関わるかを活かしたい
- ・体験することが大事、実際に違う場所に行くことで体験する
- ・様々なことが自分の中に積もっていく
- ・自分の家や家族だけというのではなく、まわりのコミュニティとも関わりをもちながら暮らしたい
- ・それぞれの地域の魅力を見つけること
- ・自分の家族や子どもを連れてきたいと思う
- ・予期せぬ事態への対応能力
- ・自分のやりたいことを見つけるきっかけにしたい
- ・企画力、まとめる力
- ・ある問題点に対し皆で解決策を話し合っていく機会など、どれをとっても私が将来社会に出て役に立つ財産であると考えている
- ・全く知らない土地でのヒアリング調査や、問題解決に向けて新しい発想を生み出す力
- ・より多くの人に何かを知ってもらうにはどうするかを考える力を生かす
- ・アウトドアなど
- ・その地域に飛び込み活動を継続する
- ・農家さんの生の声を取り入れた農薬等の開発をできたらいいなと思う
- ・地元の活性化に携わりたい
- ・農村と関わられるような職業につきたい
- ・活かすことができれば良いとは思いますが、どのように生きるかは想像しづらい。もしどこかで活かすことができればラッキー程度に思っている
- ・身につけた知識、知恵、行動方法などがちょっとした事に役立つととても嬉しい
- ・大学生活の中で活動がかなりの時間を占めているため、どちらかというと“勝手に”将来の自分の考え方等に影響してくるように思う
- ・都会で生まれ育った自分にとっては貴重な経験で、将来子どもができた時に、そんな経験をさせてあげたい
- ・小学校の先生になった時に、学校の畑で、様々な作物を育てたい。また、農作業の大変さから食べ物大切さ、また、いのちを育てることの楽しさ、嬉しさを子どもたちに伝えていきたい
- ・活かしたいと思わなくても、自分の思想の中にすでに活きている
- ・将来都会ではなく田舎に住みたいと思っており、現状を想像ではなく実際に知ることができたので、以前よりはそういったところに入りやすくなったと思う

Q5.自分たちの活動の自己評価は？

- ・お話を頂いてから、プロジェクトが始まっているので、自分達から何か提案ができれば良いと思う
- ・地域の方は私たちがあたたかく迎えてくれて、少しずつ信頼関係を築いてこれていると思う
- ・徐々に認められているような気がする
- ・地域の住民だけでなく、学生など多くの人を巻き込んで活動していることが良いと思う
- ・まだまだ課題はあるものの、比較的に進んでいると思う
- ・活動初年度にしてはいい方ではないかと思う、地元の方との繋がりなどをこの調子で徐々に増やしていきたい
- ・なんとなく形になっているように見えるがちゃんとできていない気がする、しっかりした団体になりたい
- ・成果も出しつつ、楽しんで活動できたので良いと思う
- ・地域住民と触れ合うことを意識して活動してきて、アンケート結果からも効果はあったと感じている。一方、まちの賑わいのための手助けという面ではまだ何もできていないのが現状であり、今後を活かしていきたい
- ・継続的にできているのはいいが、長期の目標としてはどうなっているか分からない
- ・住民の方が主役な感じをもう少し出してあげれば良いと思う
- ・本来なら中心になって動くべき立場にも関わらず、サークルの活動が他人事に感じてしまう。そのため同輩にも後輩にも後ろめたさ、申し訳なさを感じている
- ・いろんなところにも目を向けて活動できていると思う
- ・後輩が継続して来てくれるような、楽しい雰囲気を作ることができなかった。周りを巻き込む力がなかった
- ・ぼちぼちやってる感じで間口が広いイメージ、責任感が薄れてしまう時があるから気を付けたい
- ・“なんとなく”地域の役に立っている感じはあるが、活性化には貢献していない気がする
- ・自由なのがいいところでもあるが、自由すぎる。月に1~2度は必ず参加するような日を設けたい
- ・全体的によくやったと思うが、いつの間にかサークル活動というより、自分の中で完全に仕事化されていた。メンバーにもその感覚を押し付けてしまったように思う。楽しむ余裕がなくなっていた
- ・楽しく活動させてもらえたことは嬉しく思う
- ・この活動は間違いなく学生にとってはいい経験となっている、地域にとってもいい活動となっていれば嬉しい
- ・地域の祭りでは、多くの学生が参加することができ、祭りを盛り上げ、地域の良さを広めることができた
- ・毎週のように畑作業があったが、一部の人に作業の負担がかかってしまい、しんどい面もあったと思う
- ・大学生活の中で、研究や就職活動など、自分のしたいことも優先して、無理なく活動が行えるようにしたい
- ・地域の人と関わるだけでなく、上の世代があまり参加できなくなってからもうまく回るような新しい事業を作れなかったことは残念
- ・地域の方々には喜んでくれるが、そんな大層なことをやっているわけではないし、これでいいのかと常に不安を感じる

Q6.地域と如何に関わり続けていくか、継続のための提案

- ・学生だけの問題ではなく、社会を含めた問題であると思う
- ・“まちづくり”という活動はボランティア活動として捉えられることが多いと感じる
- ・今後も地域と関わり続けながらまちづくりを行っていくためには、ある程度の収益を生むまちづくりを行っていかねばならない。そのためには、学生だけではなく実社会でまちづくりが行われている地域の方、行政、NPO、コンサルタント会社、民間企業それぞれの知識や経験を基に、本当に継続出来るまちづくりや地域に求められているまちづくりの在り方を検討する必要があると感じている
- ・定住すること、滞在型
- ・移動手段（交通）が増えたら良い
- ・あるプロジェクトを、団体が地域の住民に少しずつ任せて、そして手渡ししていくようなプログラムを作る
- ・多くの人を巻き込むこと、活動内容にやりがいと楽しさがあれば続くと思う
- ・様々なことができるフィールドであり続けることが大事だと考える
- ・今までの活動で築いてきた信頼関係を大切に、地域の活動や問題解決に関わっていききたい
- ・もっと、多くの方に活動を知ってもらい、他大学の若者も巻き込みたい
- ・お互いがいい意味で利用しあえるような関係になること
- ・学生、地域、どちらかが頑張るのではなく、お互いが頑張る関係になりたい
- ・活動をしているといろいろなことを地域の方から提案されるが、活動を絞るべきか全部受け入れていくべきか
- ・学生のモチベーション維持や新メンバー獲得のためにも、広報をしっかりして、新聞やテレビにも取り上げてもらえるようになるにはどうしたら良いか
- ・お互いに影響し合える関係を維持すること
- ・活性化のための活動を私たちが一方的に行うのではなく、地域住民の方と協働して活動していくことにより、活動自体が継続的なものになっていくのではないかと
- ・代が変わるごとに地域との関係が薄れるスパイラルは今後の課題であり、縦の繋がりからどの世代も円滑に地域に受け入れるシステム作りをしないといけないと思う
- ・まずは地元の方に地域の魅力を再発見してもらうこと
- ・その場その場のメンバーでサークルの方向性を決めるのではなく、決めた目的を代々引き継がせる方がいい
- ・自分が行きたいときと現地の人が来てほしいときの折り合いをうまくつけれるようにしたい
- ・集落の方々と互いに挨拶できるような関係であれば良い、互いに無理のないような関係が継続すること
- ・継続することは素晴らしいことだと思うが、継続することばかりが重視されていて、結果の部分が蔑ろにされている気がする。“継続”といっても様々な形がありえると思うので、地域がどのように変化したのか、といった部分にもっとこだわる必要があると思う
- ・団体の活動としてではなく、たまに訪れて地域の方々とおしゃべりしたい
- ・イベントには参加したい、できる限り農作業のお手伝いもできたらいいと思う
- ・一人ひとりが関われる範囲で、お世話になった各農家さんの農作業のお手伝いと各イベント参加という形で関わりたい。一人ひとりが無理をせず、誰かに負担がかからないような体制を作っておくことが大切だと思う
- ・自分の意(欲)のままになるということではないが、なるようになると思う
- ・これまでのように頻繁に地域に行くことは難しくなるが、ゼロではなく少しでもイベントなどに参加したい
- ・学生が地域に入るため、地域の方が学生を知るきっかけをつくるハブとしての人間の設定（若い人がいいと思う）

(3) 当日参加者アンケート

アンケート

Q1. 各大学の活動場所の現地視察・活動報告はいかがでしたか。

①篠山市西紀南地区（神戸大学：にしき恋、ささやまファン倶楽部）							
1	よく知っていた	2	少しは知っていた	3	全く知らなかった		
1	非常に興味を 持った	2	少し興味を 持った	3	あまり興味を 持てなかった	4	全く興味を 持てなかった
【感想・意見等】							
②丹波市柏原地区（関西学院大学：柏原まちづくりプロジェクト、総合政策学部、法学部）							
1	よく知っていた	2	少しは知っていた	3	全く知らなかった		
1	非常に興味を 持った	2	少し興味を 持った	3	あまり興味を 持てなかった	4	全く興味を 持てなかった
【感想・意見等】							
③丹波市佐治地区（関西大学：丹波学生企画部 ATACOM）							
1	よく知っていた	2	少しは知っていた	3	全く知らなかった		
1	非常に興味を 持った	2	少し興味を 持った	3	あまり興味を 持てなかった	4	全く興味を 持てなかった
【感想・意見等】							

Q2. フリーディスカッションについていかがでしたか。

1	非常に良かった	2	少し良かった	3	あまり 良くなかった	4	良くなかった
【具体的な理由】							

Q3. 本日のフォーラムについて、ご感想・ご意見など自由にお書きください。

--

〈最後に〉あなたご自身について、お尋ねします。

住 所

1 篠山市内 2 丹波市内 3 兵庫県内の他市町 4 県外（ ）

性 別 職 業

（ 男 ・ 女 ） （ 学生 ・ 会社員 ・ 公務員 ・ その他（ ） ）

年 齢

（ 10代 ・ 20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代以上 ）

ご協力ありがとうございました。

参加者アンケート集計結果

日 時：平成 25 年 12 月 8 日（日） 16:00～17:30（フリーディスカッション実施時間）

全回答数：29（関係者を除く一般参加者 47 名のうち 29 名が回答）

回 答 率：62%

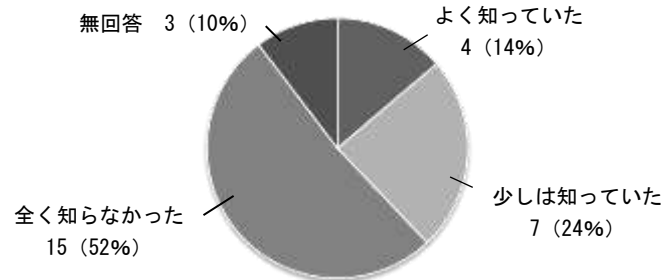
回答者属性

住 所	
篠山市内：0 丹波市内：1 兵庫県内の他市町：14 県外：14 無回答：0	
<p>丹波市内 1 (4%)</p> <p>兵庫県内の他市町 14 (48%)</p> <p>県外 14 (48%)</p>	
性 別	職 業
男：13 女：14 無回答：2	学生：27 会社員：0 公務員：0 その他：2 無回答：0
<p>男 13 (45%)</p> <p>女 14 (48%)</p> <p>無回答 2 (7%)</p>	<p>学生 27 (93%)</p> <p>その他 2 (7%)</p>
年 齢	
10代：5 20代：22 30代：0 40代：1 50代：0 60代以上：1 無回答：0	
<p>20代 22 (76%)</p> <p>10代 5 (17%)</p> <p>40代 1 (3%)</p> <p>60代以上 1 (3%)</p>	

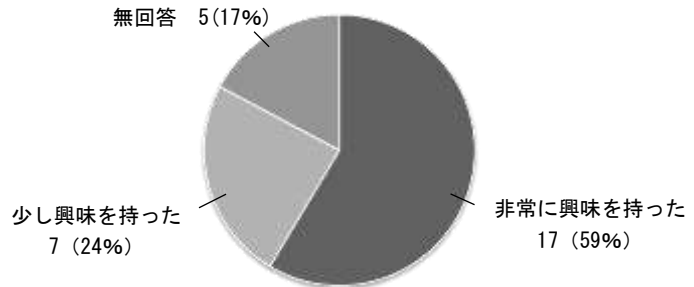
Q1.各大学の活動場所の現地視察・活動報告はいかがでしたか。

①篠山市西紀南地区（神戸大学：にしき恋、ささやまファン倶楽部）

1. よく知っていた	4
2. 少しは知っていた	7
3. 全く知らなかった	15
無回答	3



1. 非常に興味を持った	17
2. 少し興味を持った	7
3. あまり興味を持てなかった	0
4. 全く興味を持てなかった	0
無回答	5

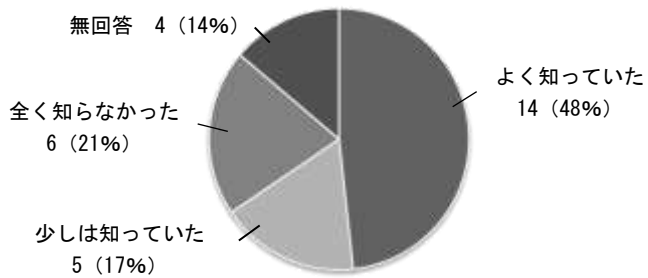


【感想・意見等】

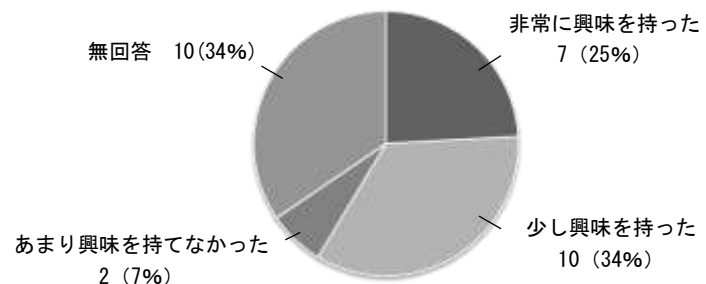
- ・とても良い活動だと思った
- ・活動範囲が幅広い
- ・野菜収穫、農業体験が楽しかった（2）
- ・この活動に参加したいと思っている人がもっといるはずだと思う
- ・自分たちの活動と比較して、もっと頑張らないとな、と思った
- ・地域住民から助言をいただきつつ、農作物を育てていることがすごい
- ・学生と農業が組み合わせることで、新しい可能性が生まれると思った
- ・実際に販売などをしていてすごいと思った
- ・農業を休日だけでも出来ていることに驚いた
- ・まちづくり以外でも地域への協力ができることを知った

②丹波市柏原地区（関西学院大学：柏原まちづくりプロジェクト、総合政策学部、法学部）

1. よく知っていた	14
2. 少しは知っていた	5
3. 全く知らなかった	6
無回答	4



1. 非常に興味を持った	7
2. 少し興味を持った	10
3. あまり興味を持てなかった	2
4. 全く興味を持てなかった	0
無回答	10

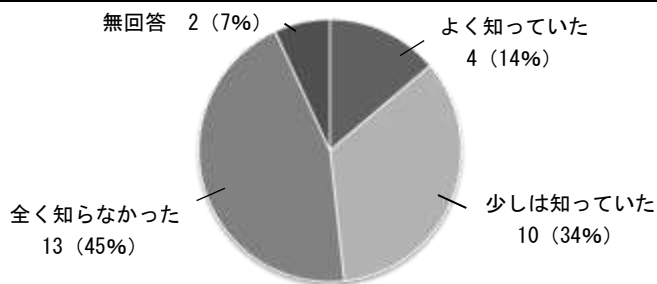


【感想・意見等】

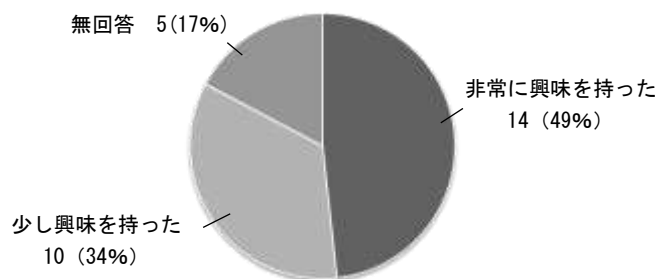
- ・同じ関西学院大学の学生だが、別のグループの活動を知ることができた
- ・地域との連携は上手に行っているのか気になる
- ・なぜ、地域で活動しているのかがよく分からなかった
- ・きれいな町並みが整備されているところとちぐはぐな所があったので気になった

③丹波市佐治地区（関西大学：丹波学生企画部）

1. よく知っていた	4
2. 少しは知っていた	10
3. 全く知らなかった	13
無回答	2



1. 非常に興味を持った	14
2. 少し興味を持った	10
3. あまり興味を持てなかった	0
4. 全く興味を持てなかった	0
無回答	5

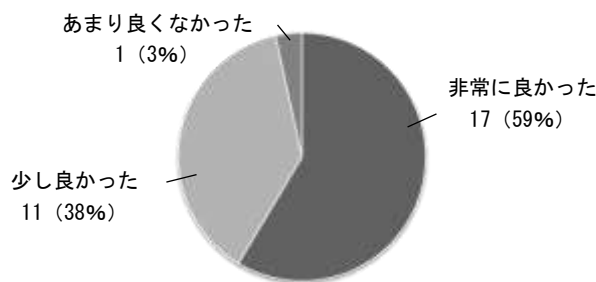


【感想・意見等】

- ・ 模型に旗を立てていくワークショップが楽しかった
- ・ 中山間地域の“農”ではない部分からのアプローチに興味がある
- ・ 佐治がすてき、すごく良いまちだと思った
- ・ 空き家の改修やスタジオの工夫がすごい、さすが建築の学生だと思った
- ・ マップ作成が模型を使っていたので、とても興味深かった
- ・ 古民家の改修を、自分たちの知識を生かして設計しているのが面白かった
- ・ 具体的にどういう活動をしているのか、レジュメなどがあれば嬉しかった
- ・ しだれ桜や神社など、今まで青垣に来たときには見るができなかったものが見れて楽しかった

Q2.フリーディスカッションについていかがでしたか。

1. 非常に良かった	17
2. 少し良かった	11
3. あまり良くなかった	1
4. 良くなかった	0



【具体的な意見】

- ・コミュニケーションがうまく図れた
- ・時間短かった (2)
- ・自由な議論があまりできなかった気がした
- ・いろんな人と議論し、その人たちの考えを知ることができた
- ・他大学や他学部の人と意見を交わすことができ良かった、共通の価値観を持って話をするのができた
- ・普段は、自分たちの将来の姿を具体的に想像できるような機会がないから良い機会だった
- ・学生のありのままの意見が出てきたことが良かったと思う
- ・閉塞感のある田舎のまちの振興について再考するいいきっかけになりそうだった
- ・刺激的な話し合いができたが、もっと時間をかけて話し合いたかった
- ・他大学の方の意見を聞くことのできる良い機会だった、とても貴重な体験ができた
- ・自分と同じように考えている (考えが近い) 人もいれば、どう考えているのか終始分からない人もいて、少し遠慮があったと思う
- ・コンペは楽しかったが、もっと各団体の情報交換がしたかった
- ・もう少しフリーなディスカッションもあればと思った
- ・他大学の人と短い時間の中で、企画を考えられたことは面白かった
- ・もっとこういった機会をつくり、実際のプロジェクトにできればもっと面白いと思う
- ・今まで考えもしなかったアイデアが聞けて非常に良かった
- ・さまざまな違った意見があって刺激になった、みんなが良い意見をたくさん出してすごいと思った
- ・意見を出しやすい環境でできた
- ・若い世代の意見が良かった
- ・さまざまな意見を出し合ってとても楽しかった

Q3.本日のフォーラムについて、ご感想・ご意見など自由にお書きください。

- ・とても楽しかった (4)
- ・時間が長かった
- ・バスで寝たかった
- ・他団体のみなさんから元気をもらえた気がした
- ・目的や方法などが少しアバウトで、どう企画するのが難しかった
- ・ひとつひとつの行程が少しバタバタしていた、もう少し詳しくいろいろ見たかった
- ・それぞれの学生が活動していて、感じていることや困っていることなどをあまり共有できなかったのが残念
- ・時間は限られていたが、他大学の活動を見ることができて刺激を受けた
- ・ネームタグを作るなど、もっと他大学の人と交流できるようにしてほしい
- ・ワークショップをするのか、活動についての話をするのかどっちつかずで、どちらも時間が少なかつた気がする
- ・今回+αで地元の人とのヒアリング、インタビューをして発表してほしい
- ・地域活動の継続についてアイデアを出すフリーディスカッションの企画が面白かった
- ・次回は、ディスカッションの時間をもう少し増やしてほしい
- ・もう少ししっかり参加できれば良かった、ぜひ来年も参加したい
- ・これからもっとこの地域について学んでいきたいと思った
- ・もっと時間をとって落ち着いてやりたかった
- ・他大学の活動を見て、“仕組み”の重要性をすごく感じた
- ・各地域にいる時間が少し短かった
- ・次回もあつたらまた参加したい (2)

(4) 開催チラシ



丹波地域大学連携フォーラム <フリーディスカッション>

地域とかがわり続ける

～こんなんやったら
続けられるで～

大学のない丹波地域では、さまざまな大学が地域に入り、フィールドワークや農作業の手伝いなど、学生たちが独自に地域貢献活動に取り組んでいます。

このたび、標記のフォーラムを開催し、相互に理解を深めるとともに“地域とかがわり続ける”ことを考えます。

参加無料
申込不要

とき 平成 25年 **12月8日** (日) 16:00～17:30

ところ 佐治コミュニティセンター「来楽館」

〒669-3811 丹波市青垣町佐治 619-2 Tel.0795-87-2608

◇プログラム◇

●意見交換

- ・現地視察で感じたこと、考えたこと
- ・継続的に活動することで地域に変化はあったか
- ・地域と如何にかがわり続けていけるか、モチベーションの持ち方
- ・活動経験の将来のライフスタイルへの活かし方

- 活動経験のあるOB・OGゲストが、学生たちの疑問や悩みに助言



当日、参加学生は各大学の活動場所を現地視察し、農作業体験やまち歩きを実施します。

(篠山市西紀南地区、丹波市柏原町柏原地区、丹波市青垣町佐治地区)

■問合せ先■

丹波地域大学連携フォーラム実行委員会事務局
兵庫県丹波県民局丹波土木事務所まちづくり建築課
〒669-3309 丹波市柏原町柏原 688
TEL: 0795-72-0500 FAX: 0795-72-4596



主催：丹波地域大学連携フォーラム実行委員会

(関西大学、関西学院大学、神戸大学、兵庫県立大学、篠山市、丹波市、兵庫県丹波県民局)

丹波地域 大学連携フォーラム

地域とかがわり続ける
～こんなんやったら続けられるで～

とき

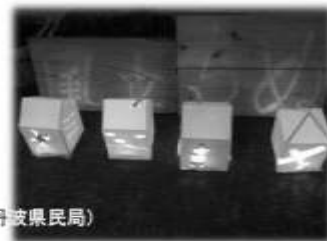
平成 25 年 12 月 8 日 (日)
16:00～17:30

ところ

佐治コミュニティセンター来楽館
〒669-3811 丹波市青垣町佐治 619-2
TEL : 0795-87-2608

主催：丹波地域大学連携フォーラム実行委員会

(関西大学、関西学院大学、神戸大学、兵庫県立大学、篠山市、丹波市、兵庫県丹波農政局)



地域とかかわり続ける ～こんなんやったら続けられるで～

大学のない丹波地域では、さまざまな大学が地域に入り、フィールドワークや農作業の手伝いなど各地域の課題を踏まえ、それぞれ違ったテーマで学生たちが独自に地域貢献活動に取り組んでいます。この度の丹波地域大学連携フォーラム・フリーディスカッションでは、日頃活動する上での疑問や課題の共有を図るとともに“地域とかかわり続ける”ことについて参加者全員で意見交換し、活動継続の方向性について展望します。

■出演者プロフィール

田宮 由梨 氏 (ゲスト) *Yuri Tamiya*
株式会社 JTB 西日本



1988年和歌山県和歌山市生まれ。神戸大学工学部市民工学科を卒業したのち、株式会社 JTB 西日本へ就職。神戸支店法人営業部へ配属後 3 年目の現在は、全社的に取り組んでいる“地域交流ビジネス”についての勉強を進めながら、団体旅行の渉外営業業務を務める。

小野 敦史 氏 (ゲスト) *Atsushi Ono*
株式会社大林組



1984 年福岡県生まれ。2007 年関西大学工学部建築学科卒業。2009 年関西大学大学院理工学研究科修士課程修了後、株式会社大林組勤務。2006 年から始まった丹波での活動に初期メンバーとして参加し、佐治スタジオの改修作業など様々な取り組みの立ち上げに関わった。

布施 未恵子 氏 (コーディネーター) *Mieko Fuse*
神戸大学大学院農学研究科 特命助教



1980 年長崎県生まれ。京都大学大学院理学研究科にて霊長類生態学を研究したのち、神戸大学篠山フィールドステーションに駐在。篠山市では地域課題である獣害対策に関する地域共同研究に従事するほか、農業農村を学ぶ現地実習のコーディネートをとおして、学生や教員が活動する拠点の整備を進めている。

出町 慎 氏 (コーディネーター) *Makoto Demachi*
関西大学 TAFS 佐治スタジオ 室長



1982 年奈良県生まれ。関西大学工学部建築学科卒業。大学時代から日本や世界各地の集落を回り“持続的な集住環境のカタチ”について独自に学ぶ。2006 年より丹波市青垣町に佐治スタジオを設け、研究分野である“建築環境デザイン”の視点から、空き家の改修や活用を軸にしたさまざまな活動を展開している。

■本日のスケジュール

10:30～	13:30～	15:00～	16:00～
にしき恋 活動報告	柏原まちづくりプロジェクト 活動報告	丹波学生企画部 活動報告	フリーディスカッション
篠山市西紀南地区	丹波市柏原地区	丹波市佐治地区	佐治コミュニティセンター来楽館

丹波学生企画部 ATACOM

〔丹波市氷上町中央地区〕

- 構成員 約 25 名〈関西大学〉
- 中央地区で開催される愛宕祭りに企画段階から参加し、造り物制作、ワークショップの実施などを通じて中央地区の魅力を発信する。あわせて、地元の地域づくり活動に積極的に参加する。

柏原まちづくりプロジェクト

〔丹波市柏原町柏原地区〕

- 構成員 約 20 名〈関西学院大学〉
- 柏原町内で開催されるアートクラフトフェスティバルに参加し、柏原地区をPRするイベントを実施するほか、中心市街地における各種のイベントに参加し地域活性化の支援を行う。



にしき恋 〔篠山市西紀南地区〕

- 構成員 約 30 名〈神戸大学〉
- 地域の課題である農作業の人手不足を補うために農作業の手伝いをするほか、管理者のいない遊休農地（にしき恋 farm）を自分たち自身で管理している。

ささやまファン倶楽部 〔篠山市真南条上地区〕

- 構成員 約 10 名〈神戸大学〉
- 少子高齢化、過疎化の進む真南条上集落にある由利山の里山整備を行う。また、地元の特産品の農産物を使った料理を都市部で販売し、都市住民にその魅力をPRする。

丹波地域 学生グループの活動エリア図

(6) 実行委員会

丹波地域大学連携フォーラム実行委員会 会則

(名 称)

第1条 この会は、丹波地域大学連携フォーラム実行委員会（以下「実行委員会」という。）という。

(目 的)

第2条 実行委員会は、丹波地域において大学が地域と連携して行うまちづくりや農業等に関する活動の発信及び大学と地域の連携の発展を目的とした丹波地域大学連携フォーラム等の実施に関する企画調整及び進行管理を行い、適切かつ円滑に遂行することを目的とする。

(事 業)

第3条 実行委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 企画及び事業計画の策定に関すること
- (2) 総合調整及び進行管理に関すること
- (3) 広報活動の推進に関すること
- (4) その他必要な事項

(構成員)

第4条 実行委員会は、別表に掲げる者をもって構成する。

(役 員)

第5条 実行委員会に、会長1名、副会長3名を置く。

2 会長は、委員の互選によりこれを定め、副会長は委員の中から会長が指名する。

3 会長は、実行委員会を代表し、会務を総括する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長が不在のとき、または会長に事故があるときは、その職務を代行する。

5 監事は、丹波県民局丹波土木事務所工事業務課長をもって充てる。

6 監事は、会計を監査する。

(会 議)

第6条 実行委員会の会議は、必要に応じて会長が招集し、会長がその議長となる。

2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員が、事故その他やむを得ない理由により会議に出席できないときは、代理人を出席させることができる。

4 実行委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

5 実行委員会はその下にワーキング部会を設置し、開催することができる。ワーキング部会の運営に関する事項は別に定める。

(会長の専決処分)

第7条 会長は実行委員会を招集するいとまがないとき、又は本会の権限に属する事項で簡易なものについては、これを専決処分することができる。

2 前項の規定により専決処分したときは、会長は、これを次の実行委員会において報告しなければならない。

(会計)

第8条 実行委員会の会計は、事務局が処理する。

2 実行委員会の経理は、負担金その他の収入をもって充てる。

(事務局)

第9条 実行委員会の事務局は、兵庫県丹波県民局丹波土木事務所まちづくり建築課に置く。

2 事務局長は、兵庫県丹波県民局丹波土木事務所まちづくり建築課長の職にある者をもって充てる。

(補 則)

第10条 この会則に定めるもののほか、実行委員会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この会則は、平成25年10月28日から施行する。

別 表

丹波地域大学連携フォーラム実行委員会委員

(順不同)

氏 名	分 野	所属団体・役職	備 考
江 川 直 樹	学識経験者	関西大学 環境都市工学部 教授	会 長
角 野 幸 博	学識経験者	関西学院大学 総合政策学部 教授	副会長
田 原 直 樹	学識経験者	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授	副会長
高 田 理	学識経験者	神戸大学大学院 農学研究科 教授	副会長
上 田 英 樹	行 政	篠山市 政策部長	委 員
余 田 一 幸	行 政	丹波市 企画総務部長	委 員
出 野 上 聡	行 政	兵庫県 丹波県民局丹波土木事務所 まちづくり参事	委 員
高 階 強	行 政	兵庫県 丹波県民局丹波土木事務所 工事業務課長	監 事

<事務局> 丹波県民局 丹波土木事務所 まちづくり建築課長 永田 佳幸

丹波地域大学連携フォーラム

報告書

平成 26 年 1 月発行

編集・発行

丹波地域大学連携フォーラム実行委員会事務局
兵庫県丹波県民局 丹波土木事務所 まちづくり建築課
〒669-3309 兵庫県丹波市柏原町柏原 688
TEL : 0795-73-3863、FAX : 0795-72-4596